

# スポーツ産業国際展開カントリーレポート

## スポーツ産業の市場環境等に関する基本情報



### ラオス人民民主共和国

### Lao People's Democratic Republic



都市名	人口 (万人) *
ビエンチャン	19.7
パークセー	8.8
ターケーク	8.5

(出所) World Population Review 「Laos Cities by Population 2025」

# 目次

## スポーツ関連

### 【市場情報】

- スポーツ産業市場規模推移 2
- 主要市場情報 3
- スポーツ産業従業者数割合、事業者数及び1事業者当たり売上 4

### 【スポーツ習慣】

- 現地で盛んな競技 5
- 一人当たりスポーツ支出 6
- 主なスポーツリーグ 7
- 主なスタジアム 8

### 【業界情報】

- 日本のクラブチームや企業との連携クラブ概要 9
- 現地主要企業 10
- 教育分野におけるスポーツの活用動向 11
- スポーツ産業に係る日本企業の進出状況 12

### 【展示会、国際競技大会等開催情報】

- 商談会・展示会開催情報 13
- 国際競技大会開催情報 14

## 【政策動向】

- スポーツ基本計画概要 15
- SDGsへのコミットメント、SDGs×スポーツの取組 16
- 「女性の活躍推進」に関する取組 17
- 「健康・福祉」に関する取組 18

## 一般概況

### 【経済】

- 人口動態、および人口成長率・年齢別人口構成 19
- GDP、GDP成長率、一人当たりGDP 20
- 世帯所得分布 21
- 賃金 22

### 【健康・医療】

- 医療費支出 23
- 疾病構造・死亡要因 24

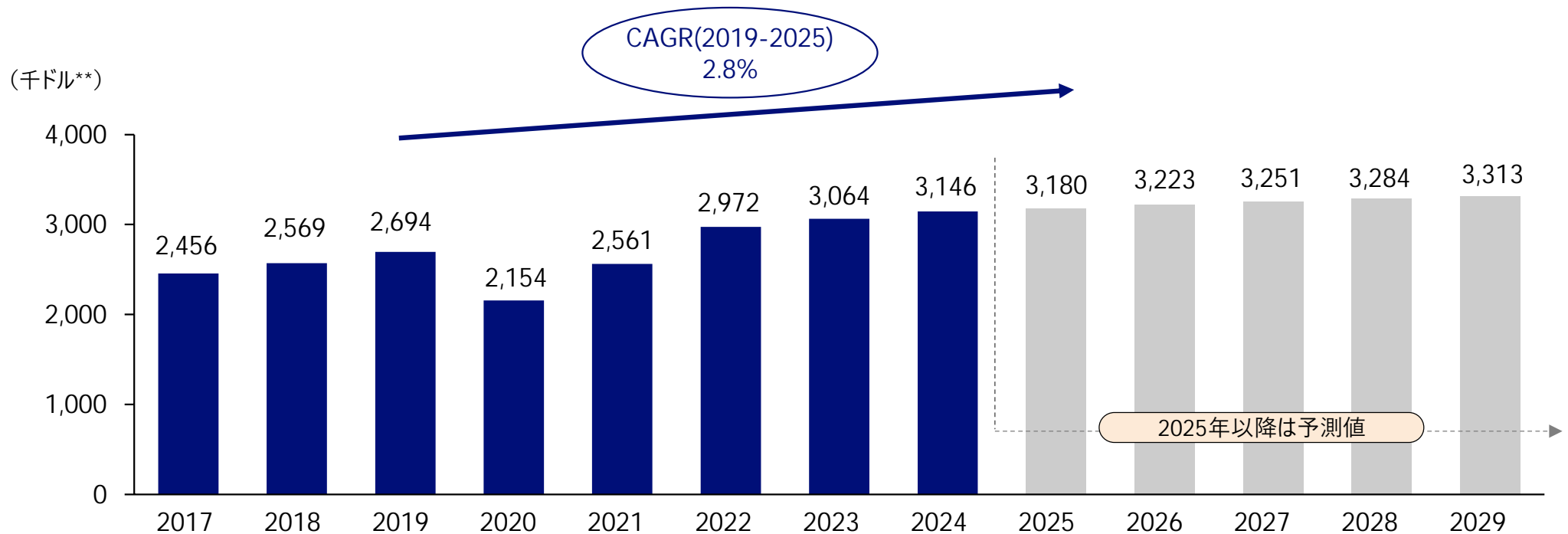
### 【規制】

- 外資に関する規制 25

## スポーツ産業市場規模推移

- 2024年のラオス人民民主共和国におけるスポーツ産業市場\*は約315万ドル\*\* (約4.72億円\*\*\*) であり、2019年から2025年までの年平均成長率 (CAGR) は約2.8%である。

### スポーツ産業市場規模推移



\*興業スポーツの市場規模の数値であり、スポーツ用品業等は含まれていない。

\*\*本レポート上の“ドル”は米ドルを表す (次頁以降同様)

\*\*\*1ドル150円で換算 (次頁以降同様)

(出所) Statista

## 主要市場情報 (スポーツ用品、フィットネス市場)

### ↑ スポーツ用品市場

- 2024年ラオスにおけるスポーツ用品の市場規模は約5,347万ドルであり、アウトドア用品、ゴルフ用品、釣り用品の順が多い。
- 2025～2029年の年平均成長率は約4.96%と予測。
- スポーツ用品は輸入ブランドが市場の大半を占め、主に現地の代理店や小売店を通じて販売される。



### 🏃 フィットネス市場

- 2024年ラオスにおけるジム・トレーニングの市場規模は約62.4万ドル。
- 2025～2029年の年平均成長率は約-0.41%と予測。
- フィットネス施設の大半は首都ビエンチャンに集中しており、主に国内企業により運営されている。



(出所) Statista

Laotian Times「Laos Football Team To Compete on FIFA Day in Brunei」、 「Sengdara Offers Fitness, Variety, and Value」

## スポーツ産業従業者数割合、事業者数及び1事業者当たり売上

- ラオス人民民主共和国におけるスポーツ産業従業者数割合、事業者数及び1事業者当たり売上に関する情報は確認できなかった。
- ラオス人民民主共和国における雇用労働従事者は約345万人（2022年）であり、産業部門（建設、製造、エネルギー、鉱業）の労働者比率は7.2%、サービス業部門（販売、宿泊・飲食、不動産、金融、公共、運輸、情報通通信、教育、技術、その他）の労働者比率は23.2%であった。\*

### 他国の参考情報

国	スポーツ産業従業者数割合 (%)	スポーツ産業事業者数	1事業者当たりの売上 (ドル)
サウジアラビア	0.30%	25,467	122,437
イギリス	0.26%	72,371	231,733
アメリカ	0.22%	43,441	2,823,163
シンガポール	0.16%	996	1,851,950
韓国	0.13%	24,357	272,094
フランス	0.13%	34,663	276,974
フィリピン	0.12%	7,802	196,463
日本	0.10%	20,164	1,254,952
インドネシア	0.09%	86,631	37,777
中国	0.08%	160,508	342,474

\*スポーツ産業はサービス業部門の“その他”に分類される

（出所） Sports Global Market Opportunities And Strategies To 2030（他国の参考情報）

## 現地で盛んな競技

- 2024年におけるラオス人民民主共和国のスポーツ産業の売上はサッカーが229万ドルで73%、バスケットボールが48万ドルで15%、野球が24万ドルで8%を占めている。
- 2022年のアジア競技大会では、セパタクローにて計3個の銅メダルを獲得した一方で、同年に行われたアジアパラ競技大会ではメダルの獲得はなかった。
- 2023年のSEA Gamesでは、ペタンク、ボッタカオ、セパタクロー、ボビナムでの計6個の金メダルをはじめ、合計88個のメダルを獲得した。

### ラオス人民民主共和国で盛んな競技

競技ごとの産業規模

競技	市場規模（100万ドル）
サッカー	229
バスケットボール	48
野球	24
クリケット	0.6
その他	12

2022年アジア競技大会の参加人数

競技	人数	競技	人数
陸上競技	4	空手	2
野球	18	新体操	1
ボクシング	4	セパタクロー	21
自転車競技 （ロード・トラック）	3	射撃	3
eスポーツ	15	水泳	5
ゴルフ	4	テコンドー	4
柔道	4	レスリング	1
柔術	2	武術太極拳	3

## 一人当たりスポーツ支出

■ ラオス人民民主共和国における2026年\*一人当たりスポーツ支出\*\*は14.83米ドル（2,225円）である。

### 一人当たりスポーツ支出（国別）

国	一人当たり スポーツ支出（ドル）
アメリカ	236.78
イギリス	161.61
オーストラリア	112.67
日本	93.5
シンガポール	87.13
ドイツ	42.11
韓国	85.6
フランス	83.74
サウジアラビア	45.35
アラブ首長国連邦	36.85

国	一人当たり スポーツ支出（ドル）
中国	36.4
南アフリカ	35.26
インドネシア	33.73
ベトナム	33
ブラジル	30.81
マレーシア	29.87
タイ	26.09
フィリピン	25.38
カンボジア	16.29
インド	16.14
ラオス	14.83

\*2026年の予測値（他国も同様）

\*\*「Sports」及び「Sports Equipment」セグメントの合計値

## 主なスポーツリーグ

- ラオスではサッカーの人气が高く、男子サッカーリーグとしてLao League1が存在している。
- また、2部リーグであるLao League2が存在しており、Toyota Motor Laosの支援で設立されたFC Chanthabouly（旧：Lao Toyota FC）が所属している。

### ラオス人民民主共和国における主なスポーツリーグ

リーグ名称	競技	設立年	チーム数	開催時期	観客動員数*	主要チーム	主要スポンサー
Lao League1 (旧：Lao Premier League)	サッカー	1990	8	9月～3月	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lao Army</li> <li>Ezra</li> <li>Young Elephants</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Jogarbola</li> <li>Pepsi</li> <li>Beerlao</li> </ul>
Lao League2	サッカー	2020	-	3月～10月	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>FC Chanthabouly</li> <li>Garuda 369 FC</li> </ul>	(Lao League1と同様)

\*ハイフンは非公開もしくは情報なし（次頁以降同様）

## 主なスタジアム

- 主要スタジアムとして、中国開発銀行の支援により建設されたNew Laos National Stadiumが存在し、主に国際大会に使用されている。
- 首都ビエンチャンに位置するChao Anouvong Stadiumは、ラオス国内のスポーツ大会及び練習の他、一般市民やアスリートを対象とした各種イベント等の開催に活用されている。
- Chao Anouvong Stadiumでは、JICAの支援により、2024年1月から2026年8月にかけて老朽化した施設の改築が進められている。バリアフリー等の機能強化及び安全性の向上を通じて、障害者を含むアスリート及び市民の利用促進を図り、もってラオスにおける障害者の社会参加促進及びスポーツ・文化事業の振興並びに都市環境整備に貢献するものと位置づけられている。

## 主なスタジアム

スタジアム名	都市	収容人数	設立年	主な利用目的
New Laos National Stadium	ビエンチャン	25,000	2009	国際大会の開催
Chao Anouvong Stadium	ビエンチャン	20,000	1950	国内スポーツ（サッカー・ラグビー・パラ陸上競技）の大会及び練習

## 日本のクラブチームや企業との連携クラブ概要

### 日本のクラブとの協定締結等が確認されるクラブの主要スポンサー、オーナー

リーグ名 (競技)	クラブ名	主要スポンサー企業	オーナー	連携先日本リーグ・クラブ
Football	FC Chanthabouly (旧：Lao Toyota FC)	Lao Toyota Service Yamaha Motor Laos	—	湘南ベルマーレ

### 日本企業との協定締結・支援等が確認されるクラブ

リーグ名 (競技)	クラブ名	協定先企業	種別
Football	FC Chanthabouly (旧：Lao Toyota FC)	トヨタ自動車 ※Toyota Motor Laosの支援で設立	自動車

## 現地主要企業（スポーツ用品とフィットネス業界）

- ラオス人民民主共和国のスポーツ用品産業は、中小規模の工場・加工拠点が中心である。
- スポーツ用品の製造業者としては、Trimax Co., Ltd.やScavi（B'Lao Group）が存在する。

### 現地主要企業（スポーツ用品とフィットネス業界）

企業名称	カテゴリ	概要
Trimax Co., Ltd.	スポーツ用品 OEM	<ul style="list-style-type: none"><li>• 大手スポーツ・アウトドアブランド向けの完成品OEM拠点。</li><li>• Amer Sportsの公開リストに掲載される“主要完成品工場”の一つで、アウトドア系製品を中心に生産。</li></ul>
Scavi（B'Lao Group）	スポーツ用品 OEM	<ul style="list-style-type: none"><li>• フランスを本拠とするスポーツ・アクティブウェア企業B'Lao GroupのOEM拠点であり、ラオスに工場を有する。</li><li>• 対外ブランド70以上とのパートナーシップ実績を有し、B'Lao Groupの全世界での生産能力は年間9,000万点以上。</li></ul>
Sengdara Fitness	フィットネスクラブ	<ul style="list-style-type: none"><li>• ビエンチャン市内に2店舗の高級クラブを展開し、最新設備やプール・サウナなどを備える。</li><li>• 約15年前にラオス発の国際水準ジムとして開業した草分け的存在であり、現在も富裕層市場をリード。</li></ul>

## 教育分野におけるスポーツの活用動向

### Education and Sports Sector Development Plan（ESSDP）

- 『Education and Sports Sector Development Plan 2021–2025（ラオス教育・スポーツ部門開発計画）』に基づき、教育とスポーツを一体的に推進することを国の人材開発戦略の一部として明確化。
- 2021–2025年の重点目標として、教育現場での体育・芸術科目の拡充および教師養成・採用の改善を明示。
- また、スポーツを通じたラオス国民の身体的・精神的健康の向上及び世界の舞台における活躍を目標に、自治体・コミュニティレベルでのスポーツへの投資や学生を対象としたスポーツイベントの充実、教育機関におけるスポーツインフラの強化等を計画・推進。

### Basic Education Quality and Access in Lao PDR Program

- オーストラリア政府及びEUの支援を受け、教育スポーツ省が主導し全国初等教育カリキュラムを改訂。
- 批判的思考力の育成に重点を置き、学習者が学習内容に積極的に取り組み、仲間とアイデアを共有し、指導内容について議論し、問題を分析し、解決策を考案することを奨励するアクティブラーニングを導入。
- 改訂の一貫として、2021年度から全国の学校で導入される新しい3年生体育カリキュラムにヨガを導入。
- 小学生の体力やバランス感覚、柔軟性に加え、集中力、記憶力、自尊心、学業成績等の向上を図る。

## スポーツ産業に係る日本企業の進出状況

- ラオス人民民主共和国に現地法人を設立している、スポーツ関連の日本企業は確認できなかった。
- モルテンは、2020年開催の第45回ラオスナショナルデー記念サッカー選手権において「共同スポンサー」として名を連ね、公式試合球の供給などを担った。
- Soccer.com. Inc.（さいたま市）が運営するJogarbolaは、ラオスサッカー連盟と公式スポンサー及びユニフォーム供給協定を締結している。

### 現地で活動しているスポーツ関連の主な日本企業（代理店販売等）

企業名	代理店	カテゴリ
モルテン	—	スポーツ用品
YONEX	Main Vision Ltd.	スポーツ用品
Jogarbola (Soccer.com, Inc.)	Động Lực Sport	スポーツ用品

## 商談会・展示会開催情報

- ラオス人民民主共和国では、スポーツ関連の主要な商談会・展示会は確認できなかった。
- 首都ビエンチャンにおいて、JETROが主催する商談会が不定期で開催されている。
- また、首都ビエンチャンではヘルスケアに関する学術会議等が定期的に行われている。

### ラオス人民民主共和国で開催される商談会・展示会

イベント名	開催地	主催者	開催頻度	主要コンテンツ
ラオスサンプル商談会	ビエンチャン	日本貿易振興機構（JETRO）	不定期	食品飲料、日用品、筆記具、中古雑貨
ラオス市場開拓現地商談会	ビエンチャン	日本貿易振興機構（JETRO）	不定期	食品飲料、化粧品、日用品、キッチン用品、中古雑貨

### ラオス人民民主共和国で開催されるスポーツ・ヘルスケアに関する学術会議等

会議名	開催地	主催者	開催頻度	主要コンテンツ
National Health Research Forum	ビエンチャン	National Institute of Public Health 他	毎年	公衆衛生全般
AAAH Conference	ビエンチャン	Asia Pacific Action Alliance on Human Resources for Health (AAAH)	毎年	保健人材政策、PHC

## 国際競技大会開催情報

- ラオス人民民主共和国では、2031年にSEA Gamesの開催が予定されている。

### ラオス人民民主共和国で開催された国際競技大会

大会名	開催時期	主催者	参加国数	参加選手数	摘要
WTT Youth Contender（卓球）	2023年1月11日 ～2023年11月14日	ワールドテーブルテニス	70	—	—

### ラオス人民民主共和国で開催予定の国際競技大会

大会名	開催時期	主催者	参加国数	参加選手数	摘要
South-East Asian Games (SEA Games)	2031年	Southeast Asian Games Federation	11	約 12,500	—

## スポーツ基本計画概要

- ラオス人民民主共和国は、教育・スポーツ分野の基盤強化と格差是正を通じて、社会経済発展および2025年までの後発開発途上国（LDC）卒業を目指す中期戦略「Education and Sports Sector Development Plan（ESSDP）2021-2025」を策定した。

### ラオス人民民主共和国におけるスポーツ基本計画概要

計画名称	Education and Sports Sector Development Plan（ESSDP）2021-2025
策定年	2020年
計画概要	「知識、スキル、正しい道徳や価値観、愛国心を持つ人材育成のための教育システムを開発し、成長する持続可能経済の需要に応え、地域諸国と協力し競争できる質の高い労働力の育成」を目標とし、ラオス教育スポーツ省がESSDPを発行。 自治体・コミュニティレベルでのスポーツへの投資や学生を対象としたスポーツイベントの充実、教育機関におけるスポーツインフラの強化等を計画・推進。
主要目標・施策	<ul style="list-style-type: none"><li>• スポーツクラブ、地域・民間団体でのスポーツ活動の拡充と障害者・競技者の質向上</li><li>• 体育・芸術教育の拡充と学生スポーツ大会の実施</li><li>• 優秀・国家代表・プロ選手の育成</li><li>• スポーツ指導者・審判・科学者の国際水準対応</li><li>• エリートスポーツのガバナンス強化</li></ul>
主要KPI	<ul style="list-style-type: none"><li>• 国民に占めるスポーツ参加者比率（20%増）</li><li>• 地方レベルの非営利スポーツ組織・施設整備数</li><li>• 指導者・審判・技術者・選手のスキルアップ人数</li><li>• 地域・国際大会でのメダル獲得数</li><li>• スポーツ関連法整備数/エリートスポーツ団体のガバナンス整備数（8法制/10団体）</li></ul>

（出所）ラオス教育スポーツ省「Education and Sports Sector Development Plan」

## SDGsへのコミットメント・取組

### 政府によるSDGsに関する取組

- SDGsの達成度合いを示すランキングでは、**世界121位**。
- 主要課題が残る項目は「飢餓撲滅、食料安全保障」、「健康・福祉」、「強靱なインフラ、工業化・イノベーション」、「持続可能なまちづくり」、「陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、生物多様性」、「実施手段の強化と持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップの活性化」である。

### SDGs17ゴールの達成状況



- : SDGsを達成している
- : 課題が残る
- : 重要課題が残る
- : 主要課題が残る
- : 情報入手不可
- ↑ : SDGs達成の見込み、または達成している
- ↗ : 穏やかに改善
- : 停滞
- ↓ : 悪化
- : 傾向把握不可

(出所) Sustainable Development Report

## 「女性の活躍推進」に関する取組

### 政府による「ジェンダー平等」に関する取組

- Sustainable Development Report 2025によると、「ジェンダー平等」の項目は、課題が残っている状況にある。
- 「ジェンダー平等」に係る要素のうち、下記の項目は達成している。
  - 労働力率の男女比
- 「ジェンダー平等」に係る要素のうち、下記の項目は達成できていない。
  - 女性議員の議席数
  - 教育を受けた平均年数の男女比
  - 近代的手法によって、家族計画についての自らの要望が満たされている出産可能年齢（15～49歳）にある女性の割合

### 「女性の活躍推進」×スポーツの事例

- Lao Women's League（女子サッカーパイロットリーグ）
  - Lao Football Federationは、2023年に女子サッカーパイロットリーグ（Lao Women's League）を設立。
  - 女性選手が継続的にプレーできる環境を整えることを目的に、8チーム、175人の選手で56試合を実施。
  - FIFA Forwardプログラム等の支援を活用し、女子サッカーリーグの制度設計・リーグ運営・指導者研修等を包括的に行っている。



## 「健康・福祉」に関する取組

### 政府による「健康・福祉」に関する取組

- Sustainable Development Report 2025によると、「健康・福祉」の項目は、いくつかの項目を除き達成している状況である。
- 「健康・福祉」に係る要素のうち、下記の項目は達成している。
  - 新規HIV感染者数
- 「健康・福祉」に係る要素のうち、下記の項目は達成できていないもしくは不明。
  - 家庭内及び外部の大気汚染による死亡率
  - 妊産婦死亡率
  - 新生児死亡率
  - 5歳未満児死亡率
  - 10万人当たりの結核感染者数
  - 心血管疾患、癌、糖尿病、又は慢性の呼吸器系疾患の死亡率
  - 道路交通事故による死亡率
  - 出生時平均余命
  - 女性1,000人当たりの青年期の出生率
  - 専門技能者の立ち会いの下での出産の割合
  - WHOが推奨するワクチンを2回接種した乳児の生存率
  - ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）のサービス普及率指数
  - 主観的幸福度

### 「健康・福祉」×スポーツの事例

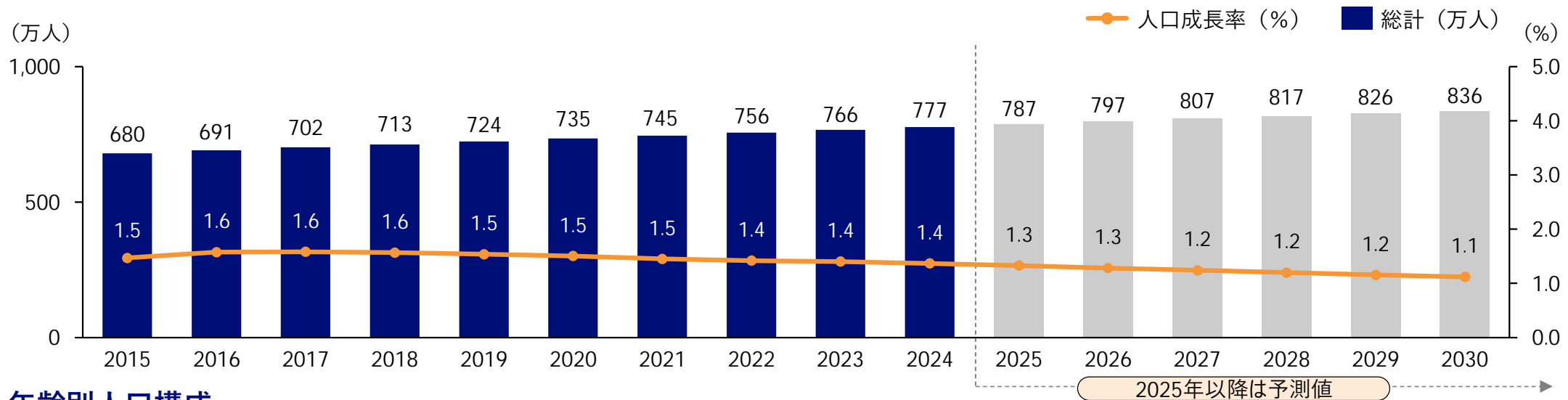
- 車いすバスケットボールチームの設立
  - ラオスの教育スポーツ省（MoES）と日本の「Sport for Tomorrow（SFT）」プログラムが協働で実施し、ラオス国内5県に車いすバスケットボールの地域チームを設立。
  - 車いすや練習用具の提供、指導者養成、女性選手向けクリニックの実施などを通じて、障害者スポーツの普及と社会的包摂を推進。



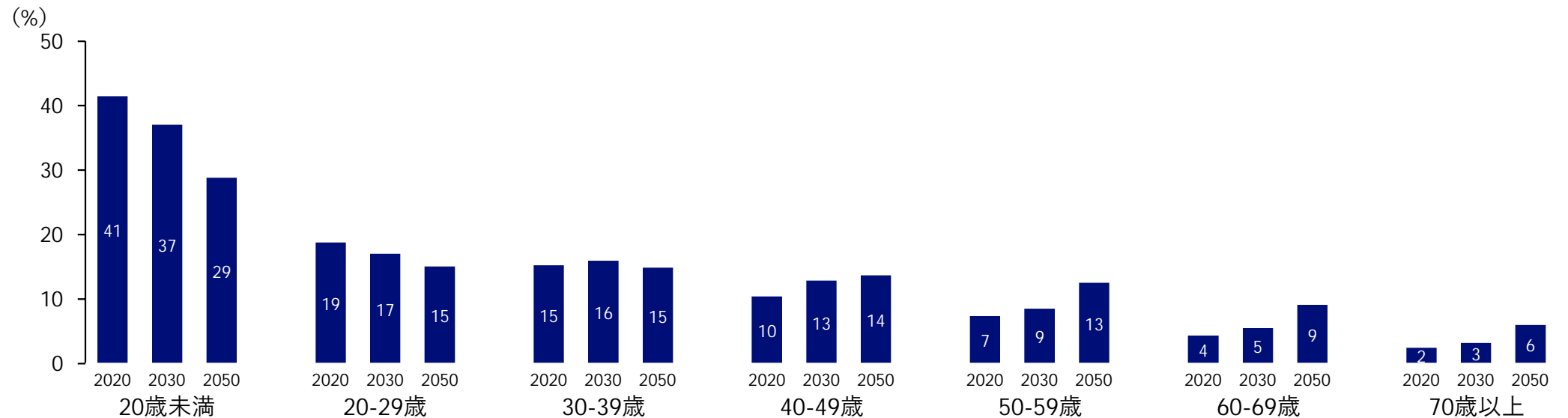
（出所） Sustainable Development Report  
Sport For Tomorrow 「【Laos】 Establishment of Wheelchair Basketball Teams and Training of Women's Teams in 5 Prefectures」

# 人口動態、および人口成長率・年齢別人口構成

## 人口動態、および人口成長率



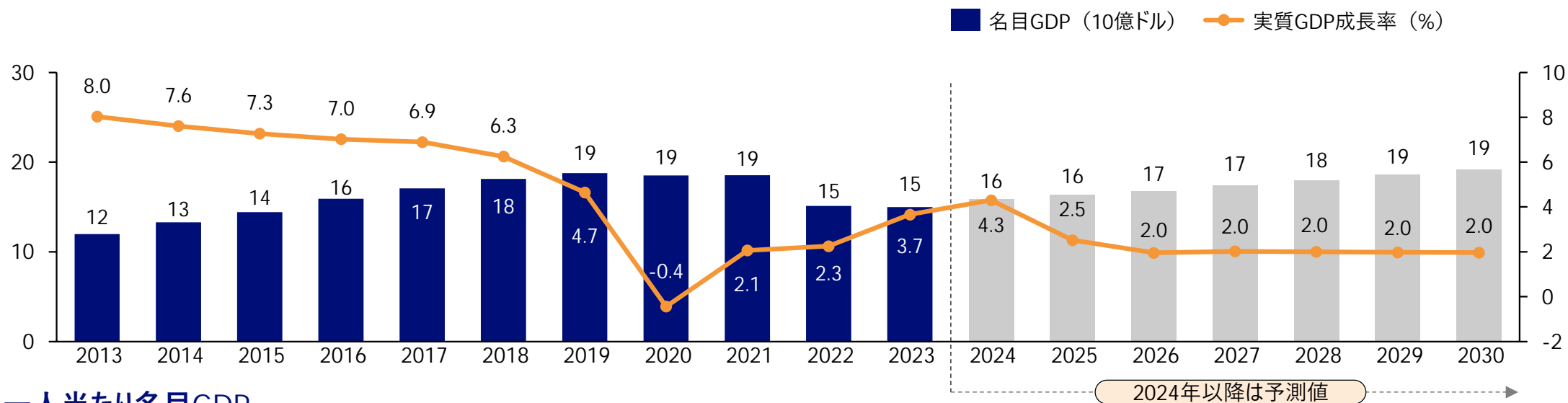
## 年齢別人口構成



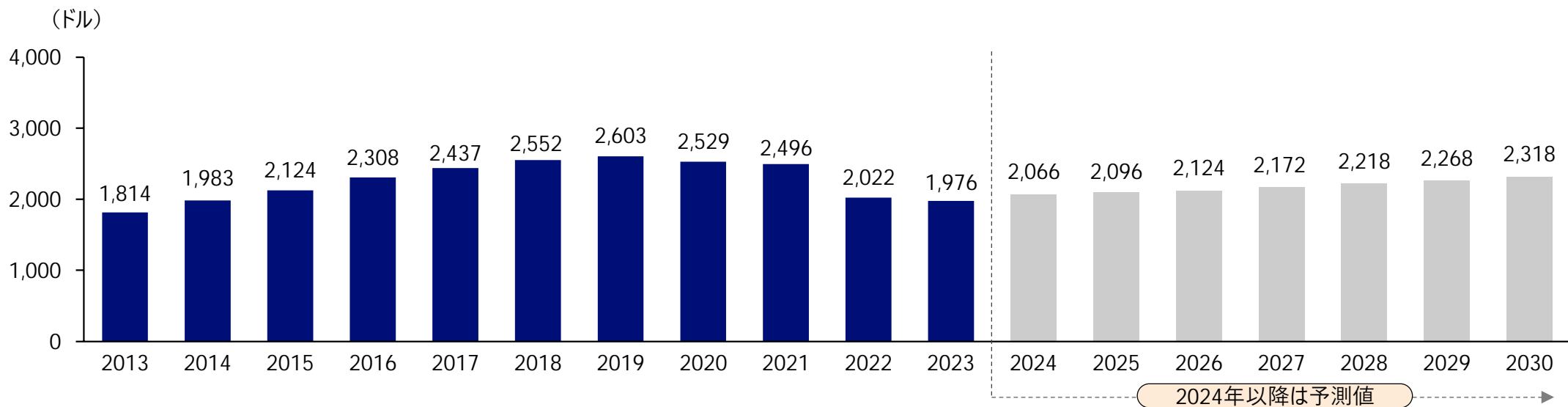
(出所) 国際連合「World Population Prospects」

# GDP、GDP成長率、一人当たりGDP

## 名目GDPおよび実質GDP成長率



## 一人当たり名目GDP

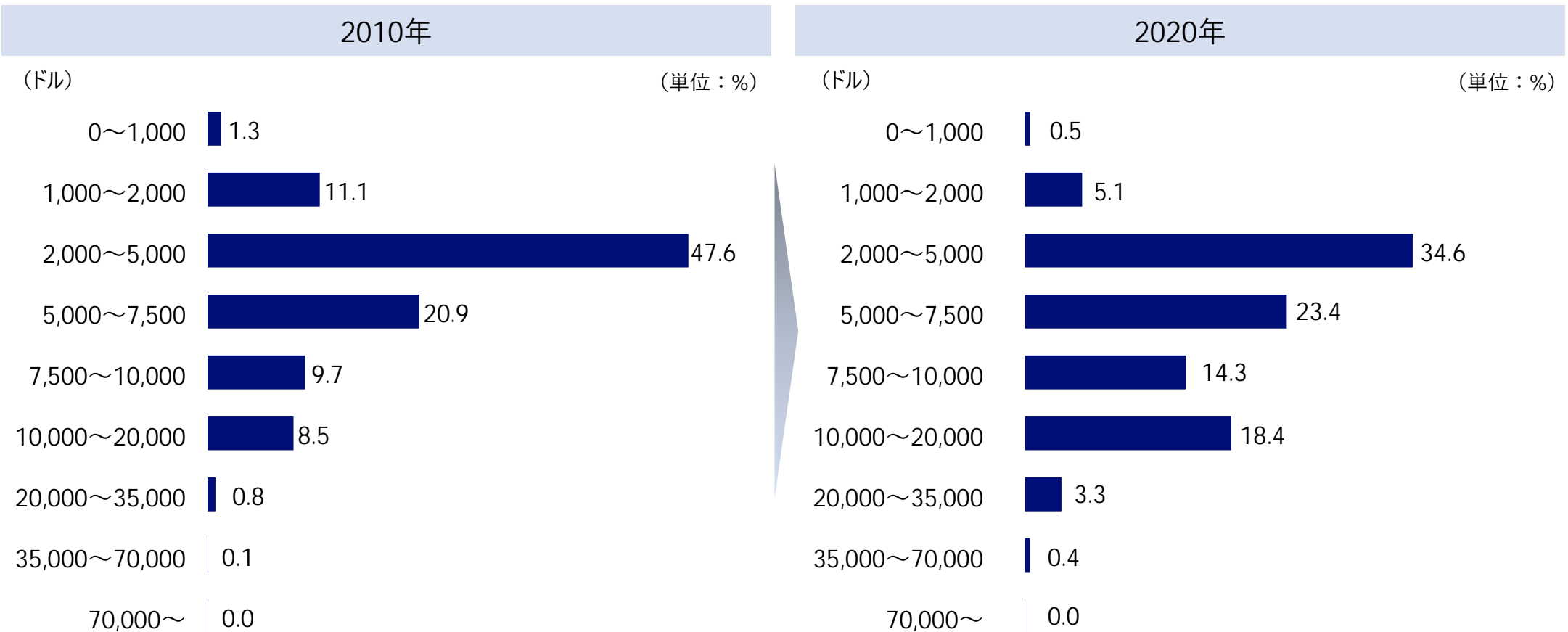


(出所) Statista

## 世帯所得分布

- 2010年から2020年にかけて改善がみられるものの、世帯所得1万ドル未満の層が77.9%を占めている。
- 世界銀行の所得分類において、ラオス人民民主共和国は「下位中所得国」に位置付けられる。

### 世帯所得分布



(出所) Oxford Economics、世界銀行「World Bank Country and Lending Groups」

## 賃金

- ラオス人民民主共和国の製造業に従事する作業員の年間実負担額は、2,116ドル。
- アジア地域の中では、インドネシア、ミャンマーと同水準。前年比昇給率は高い。

### ラオス人民民主共和国の製造業と非製造業における賃金と前年比昇給率

		基本給・月給 (単位：米ドル)	年間実負担額 (単位：米ドル)	前年比昇給率(%) (2022→2023)	前年比昇給率(%) (2023→2024)
製造業	作業員	129	2,116	18.9	17.0
	エンジニア	222	7,204		
	マネージャー	974	13,789		
非製造業	スタッフ	399	5,906	9.8	8.9
	マネージャー	1,092	16,484		

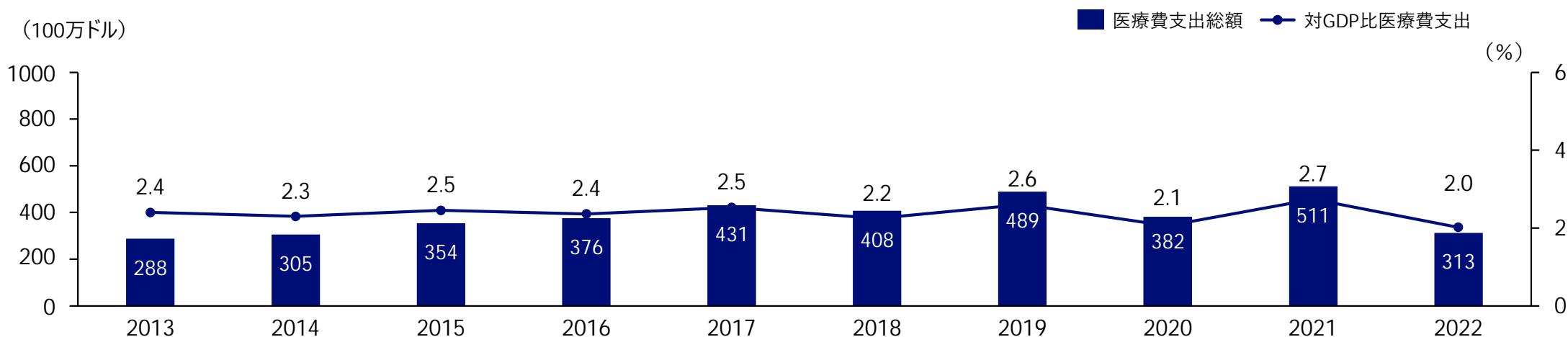
- 基本給：諸手当を除いた給与、2023年8月時点。
  - 年間実負担額：一人あたり社員に対する負担総額(基本給、諸手当、社会保障、残業、賞与などの年間合計。退職金は除く。2023年(度)時点。)
  - 作業員：正規雇用の一般職種で実務経験3年程度の場合。ただし請負労働者および試用期間中の作業員は除く。
  - エンジニア：正規雇用の中堅技術者で専門学校もしくは大卒以上、かつ実務経験5年程度の場合。
  - マネージャー（製造業）：正規雇用の営業担当課長クラスで大卒以上、かつ実務経験10年程度の場合。
  - スタッフ：正規雇用の一般職種で実務経験3年程度の場合。ただし派遣社員および試用期間中の社員は除く。
  - マネージャー（非製造業）：正規雇用の営業担当課長クラスで大卒以上、かつ実務経験10年程度の場合。
- ※各職種の自国・地域通貨建て賃金の平均値を、2023年8月の平均為替レート(各国・地域中央銀行発表)で米ドルに換算。

(出所) 2023年度 海外進出日系企業実態調査 (アジア・オセアニア編)

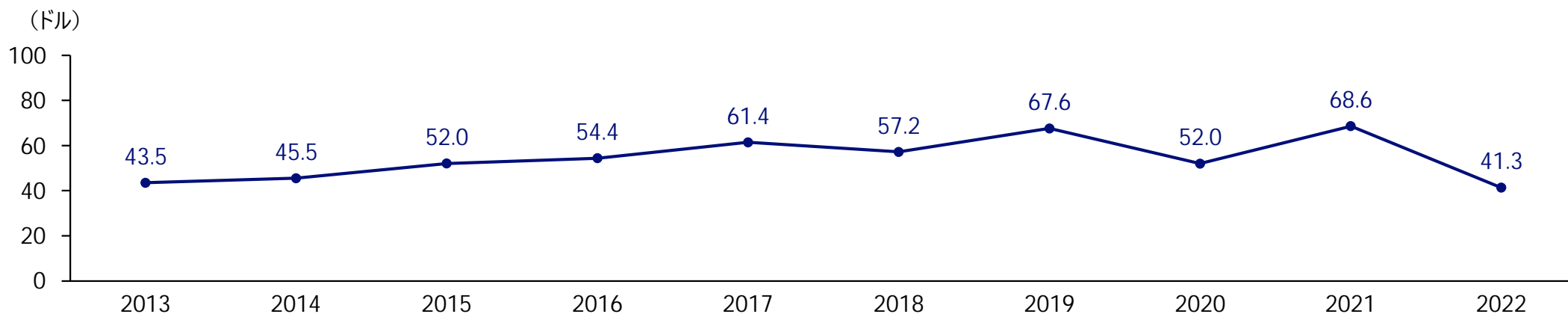
## 医療費支出

- 2022年の医療費支出は3.13億米ドル（470億円）で、対GDP比で2%。
- 2022年の一人当たり医療費は41米ドル（6,150円）。

### 医療費支出総額と対GDP比医療費支出



### 一人当たり医療費推移



(出所) 世界保健機関 (WHO) 「Global Health Expenditure Database」

## 疾病構造・死亡要因

- ラオス人民民主共和国で最も多い死因は脳卒中となっており、下気道感染症、虚血性心疾患、新生児疾患が続く。

### 疾病構造（死亡要因）の内訳（2023年）

順位	疾病名
1	Stroke（脳卒中）
2	Lower respiratory infect（下気道感染症）
3	Ischemic heart disease（虚血性心疾患）
4	Neonatal disorders（新生児疾患）
5	Chronic kidney disease（慢性腎臓病）
6	COPD（慢性閉塞性肺疾患）
7	Diarrheal diseases（下痢性疾患）
8	Road injuries（交通外傷）
9	Tuberculosis（結核）
10	Cirrhosis（肝硬変）

運動習慣が発症・進行に関与するとされる疾患群（出所：厚生労働省「健康寿命を延ばそう SMART LIFE PROJECT」）

（出所）保健指標評価研究所（IHME）「Global Burden of Disease Study: GBD」

## 外資に関する規制

カテゴリ	概要
<b>規制業種・ 禁止業種</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内資・外資を問わず6分野での事業の実施が禁止されている他、14分野36業種については、ラオス国籍者のみに保全される業種として外資参入が認められていない。またネガティブリストに定められる14分野（教育、保健衛生・社会セクター、芸術・娯楽等）の44業種については、企業登録前に関係機関による承認が必要である。ただし各省で独自に規定される外資規制も散見されることから注意が必要。</li> </ul>
<b>出資比率・資本金に関する規制</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオスでの外国企業による投資には、100%出資、現地企業との合弁、法人設立を伴わない契約に基づく現地企業との事業協力、国営企業との合弁、政府との合弁という5つの形態がある（2024年改正投資奨励法25条）。</li> <li>外国企業の定義はないが、基本的に外国資本が入っている企業はすべて外国企業と見なされる。</li> <li>一般事業の最低登録資本金は、企業法および関係省庁が定める法律に従って決まる。コンセッション事業の場合は総資本金に応じて2%～30%以上必要である。経済特区における事業については、各経済特区により異なる。</li> </ul>
<b>外国企業の 土地所有の可否</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラオス国内の土地はすべて国家が所有し、個人や法人が保有できるのは土地利用権あるいはリース・コンセッション締結権である。外国人および外国企業は永久的な土地利用権を持つことはできず、ラオス政府やラオス国民からのリースあるいはコンセッション供与によって、土地の使用権のみを保有することができる。</li> </ul>
<b>その他規制</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国直接投資（FDI）の外貨管理に関する中央銀行総裁合意第1225号（2023年12月21日付）では、企業は投資許可や企業登録後15日以内にラオス国内の商業銀行で口座を開設することが義務付けられている。投資許可や企業登録の取得前に口座の開設を行うことも可能である。</li> </ul>

（出所）JETRO「日本からの進出に関する制度/外資に関する規制」